

## 第1編 総論

### 第1章 計画のあらまし

#### 1. 計画策定の趣旨

伯耆町は、財政構造の変化、少子高齢化、町民ニーズの多様化などの社会情勢の急速な変化を背景に地方の自立が叫ばれる中で、合併に取り組み2005年（平成17年）1月1日に西伯郡岸本町と日野郡溝口町が新設合併して誕生しました。

この計画は、本町が初めて策定する総合計画であり、町が今後の10年間で目指す将来像やまちづくりを明示します。

そして、長期にわたり本町の町政運営の方針を明らかにし、今後、住民と行政が協働してまちづくりをすすめ、合併して良かったと感じられるまちを作り上げていくための基本方針となることを大きな目的としています。

この計画は、町の最上位計画に位置付けられ、各種部門計画を策定・実施していく際の基本となるものです。

#### 2. 計画の名称

この計画の名称は、「第1次伯耆町総合計画」とします。

#### 3. 総合計画に求められるポイント

##### （1）まちづくりの理念

今後、地方分権の進展とともに、地域間競争がさらに激しくなることが予想され、単に将来像を設定するというだけでなく、新しいまちづくりの理念を持ち、時代や社会に向けて積極的に情報発信していくための計画とします。

##### （2）地域経営の指針

町の財政状況は、年々厳しくなっており、効率的・効果的な予算の配分・投入が必要となっています。また、住民の行政への参加意識が高まるにつれて、事業の目的と効果、予算の使いみちなど、行政からの説明責任が必要となっています。このため、明確な理念と町の特性を發揮していくための戦略的な地域経営の指針を示します。

### (3) まちづくりの役割分担

住民ニーズの多様化とともに、すべてのニーズに行政だけで対応することは不可能です。また、仮に行政だけで対応できたとしても、住民の理解や協力を得ることはできません。そこで、協働によるまちづくりを進めていくために、住民、企業、行政などがそれぞれどのような役割を担い、どのように関わっていくべきかを示します。

### (4) 住民参画の誘導

まちづくりは、その理念や将来像が地域の人々に理解され、共有されなければ実現に向かいません。本町の住民の中にはまちづくりに関する専門知識に長けた人材やまちづくりへの意欲や使命感を持った人材が多くいます。このような貴重な人材をまちづくりに活かし、参画をすすめる、住民と行政との協働のまちづくりについて示します。

## 4. 計画策定の方法

総合計画の策定にあたっては、住民等の意見が十分に反映されることが大切です。このため、伯耆町では、平成17年5月に公募と町推薦による委員で構成する住民会議「伯耆町まちづくり委員会」を設置し、提言をまとめていただきました。その提言を積極的に反映させるとともに、合併時に実施した「合併まちづくりアンケート」を参考にするなどして、広く住民の声を反映させています。

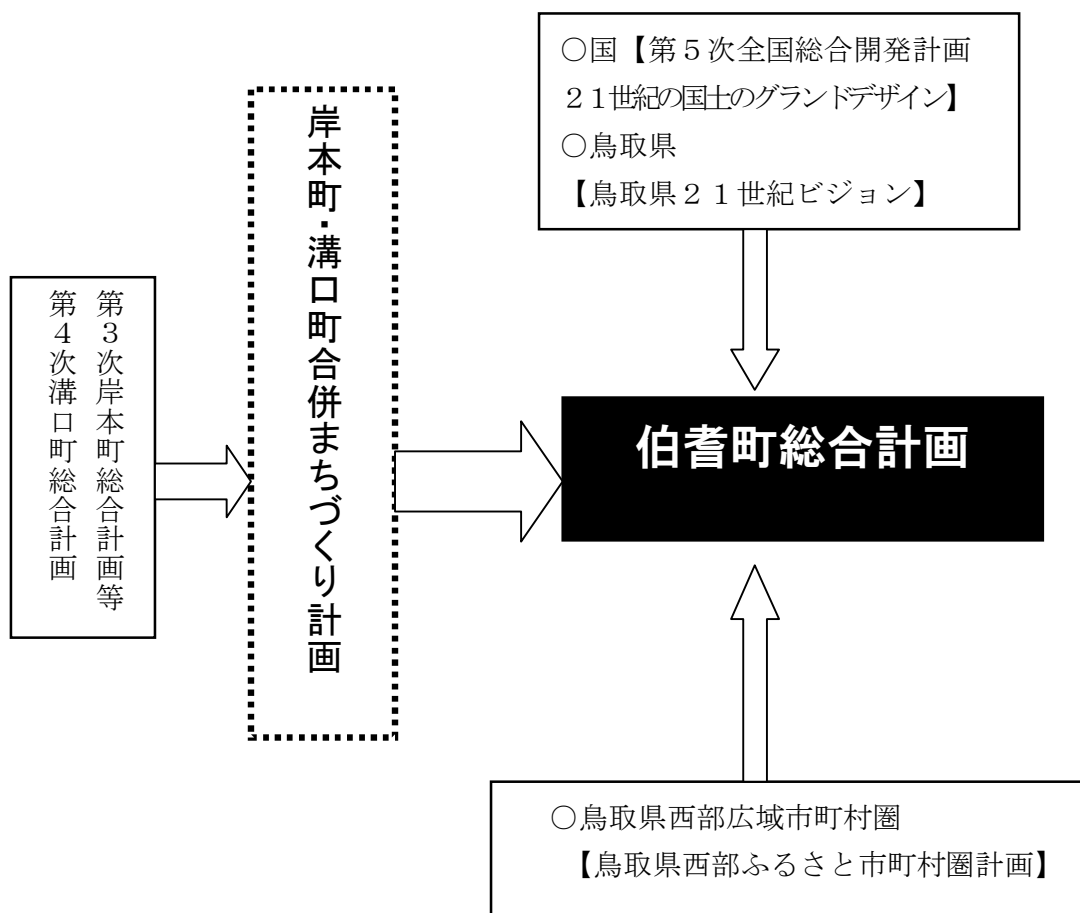
これらを基本にして、役場庁舎内で職員の視点での検討組織として、課長補佐、係長等で構成する策定プロジェクト、さらには助役、教育長、課長等で構成する策定委員会を設置して、庁内で検討を深め、素案を取りまとめました。そして、その素案を伯耆町議会特別委員会で議会としての視点での検討、さらには、住民説明会で住民の視点での検討により、それらの意見を踏まえた上で、住民の代表、関係団体の代表、学識経験者等で組織する伯耆町総合計画審議会の審議を経て計画の取りまとめに至りました。



## 6. 関連計画

この総合計画に関する計画としては、国、鳥取県、広域行政、旧町の総合計画、合併協議会が策定した建設計画（合併まちづくり計画）等があります。

総合計画を策定する上では、これらの関連計画との整合性を十分に取りながらすすめて行くことが大切です。なかでも、合併協議の過程で議論され、策定された合併まちづくり計画は、新町のマスタープランとしての役割を果たすように位置付けられ、総合計画策定においては、これを最大限尊重し、趣旨、内容を生かして計画策定をしています。



(1) 鳥取県21世紀ビジョン —つくろう鳥取新風土記—

計画年度	2002年版
位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広く県民から夢や提言を募集し、これからの新しい県づくりの指針としてとりまとめた、鳥取県の将来の方向性を示すビジョン</li> <li>○ 県民と行政の対話を通して一つ一つの施策が形づくられ、実行に移されることによって、将来の県の姿に少しずつ近づいていく</li> <li>○ 県民からの意見により新たな課題を掘り起こしながら、場合によっては、それに対応する方向性を盛り込むよう改訂し、「県民みんなで育むビジョン」とする</li> </ul>
計画の構成	<p>みんなの描く夢いっぱい鳥取県 ～7つの県づくり～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人ひとりが輝いて、キラリと光る鳥取県</li> <li>2. みんなで支え合うやさしい鳥取県</li> <li>3. 楽しく暮らせる鳥取県</li> <li>4. 元気で豊かな鳥取県</li> <li>5. 世界に開かれた、人が行き交う鳥取県</li> <li>6. 環境にやさしく、安全な鳥取県</li> <li>7. 県民みんなが主役の鳥取県</li> </ol>

(2) 鳥取県西部ふるさと市町村圏計画

構成市町村	米子市、境港市及び西伯郡、日野郡の各町村（9市町村）
計画期間	<p>基本構想 平成13年度～平成22年度</p> <p>基本計画 平成13年度～平成17年度</p> <p>実施計画 平成16年度～平成18年度</p>
圏域の将来像	「豊かな自然と活力ある産業が共生する交流創造拠点圏域」
計画の構成	<p>多彩な交流を促進させる基盤づくり</p> <p>圏域の発展を支える産業づくり</p> <p>新たな時代を切り拓く人材づくり</p> <p>健康で生きがいのもてる社会づくり</p> <p>快適な暮らしのための生活空間づくり</p> <p>信頼と共感で結ばれた新たな圏域づくり</p>

### (3) 岸本町の関連計画

計画名	第3次岸本町総合計画
計画期間	基本構想平成8～17年度/第6次基本計画平成13～17年度
基本理念	うるおいのある 美しい まちづくり
計画の基本的な考え方	「福祉」 ”健やかで暮らしよい まちづくり” 「人づくり」 ”未来を担う 人づくり” 「産業」 ”地域の特性を生かした 産業づくり” 「環境の保全と創造」 ”うるおいのある 快適な まちづくり”
施策の体系	○健康で明るい生活と高福祉をめざして 健康づくり/社会福祉/社会保険の充実 ○豊かな文化と人づくり 学校教育/幼児教育/社会教育/社会体育/文化活動/ 同和教育/地域間交流の推進/男女共同参画 ○豊かな産業振興をめざして 農業の振興/農業生産基盤の整備/林業の振興/商工業の振興/ 観光の振興 ○住みよい生活環境づくり 快適な生活環境の整備/利便性の確保/ 参加と連帯による地域づくり/安全な生活の確保 ○住みよい町の基礎づくり 土地利用/資源対策/交通体系の整備/広域行政 ○計画の推進をめざして 行政運営/財政運営

計画名	岸本町地域建設事業計画
策定年度	平成14年度
目標	環境価値の高い定住社会＝エコタウン
計画の基本的な考え方	○「住」「農」「リゾート」＝「環境」「景観」「自然」＋「高福祉」「健康」 ○住民生活を支える地域社会の再構築 ○「人と地球にやさしい環境のまち」のイメージづくり

計画名	岸本町地域省エネルギービジョン
策定年度	平成14年度
基本理念	エコタウンをつくる あらゆる「環境」を考えた「地球にやさしいまちづくり」
計画の基本的な考え方	○エネルギー需要（負荷）を削減する ○機器の効率を上げる ○機器の使用方法を変える ○省エネ意識の向上をはかる ○エネルギーを代替する ○省エネ診断

(4) 溝口町の関連計画

計画名	第4次溝口町総合計画
策定年度	基本構想平成13～22年度/基本計画平成13～17年度
基本理念	人と自然が協奏する交流のまち みぞくち
計画の基本的な考え方	交流による地域活性化と充実した定住環境の創造 交流を手段とする地域の活性化を図ることにより、住民の豊かさ（経済の豊かさ、暮らしの豊かさ）の向上を図る
まちづくり施策の方向性	総合的な地域活性化プロジェクト <input type="checkbox"/> 地域の個性を表現するまち （榊水高原の保全を活用／鬼っこ遊学の森の再整備） <input type="checkbox"/> 多様な交流が生まれるまち （総合交流ターミナルの整備／クラインガルテンの開設） <input type="checkbox"/> 新しい地域産業を創造するまち （6次産業としての農業振興／互恵し合う地域産業づくり） <input type="checkbox"/> 誰もが住みよい快適なまち （誰もが快適な生活環境の充実／住民と行政の協働による暮らしづくり）
分野別施策の体系	<p>○自然と調和した快適な暮らしづくりをめざして 安全で快適な交通環境をつくる（道路・交通）／情報を暮らしや交流に活かす（情報化）／安全な生活環境をつくる（消防・防災）／新しい住環境をつくる（住宅）／環境と調和して暮らす（水道・下水道・ごみ処理）／豊かな自然を守り育てる（環境保全）／溝口にふさわしい景観をつくる（公園・景観）</p> <p>○活力を生み出す産業づくりをめざして 新しい溝口農林業を育てる（農業・畜産・酪農・林業）／観光資源を生かした産業を生み出す（観光）／活力ある地域商業を育てる（商業）／魅力ある職種と雇用を確保する（工業）</p> <p>○健康でいきいきした暮らしづくりをめざして 一人ひとりが健康に暮らす（保健・医療）／お互いに認め合い、支え合って暮らす（社会福祉）／高齢者が能力を発揮し、安心して暮らす（高齢社会対策）／すこやかな子どもを産み育てる（少子化対策）</p> <p>○ともに学びあう心豊かな人づくりをめざして 子どもたちの自信と誇りを育む（学校教育）／生涯を通じて学び、自己を高める（社会教育・社会体育）／地域の文化を伝え、新しい文化を生み出す（文化）</p> <p>○住民と行政の協働によるまちづくりをめざして 活力あるコミュニティをつくる（コミュニティ）／誰もが活躍できる社会をつくる（人権尊重・男女共同参画）／一人ひとりの力をまちづくりに活かす（住民活動・住民参加）／まちの情報を共有する（情報公開・広報・公聴）／行政の機能、行動力を高める（行政・財政・広域連携）</p>

(5) 新町建設計画

計画名	岸本町・溝口町合併まちづくり計画
策定年度	平成17年度～平成26年度
基本理念	森と光が織りなすうるおいのまち 共生と交流の伯耆町
計画の基本的な考え方	岸本町・溝口町の合併による新町の未来に向けた長期的な視点に立ち、これまでのまちづくりを継承しながら、両町の特徴を生かして誰もが住みよいまちづくりを推進していくため、新町の基本方針を明らかにする
重点施策の方向性	<input type="checkbox"/> 新町エコタウン推進プロジェクト <input type="checkbox"/> 快適な道路・交通・情報化プロジェクト <input type="checkbox"/> 持続可能な農業強化プロジェクト <input type="checkbox"/> 交流産業プロジェクト <input type="checkbox"/> 地域の人づくりプロジェクト <input type="checkbox"/> 芸術文化育成プロジェクト <input type="checkbox"/> 暮らしの安心プロジェクト <input type="checkbox"/> 地域の健康づくりプロジェクト <input type="checkbox"/> 協働のまちづくりプロジェクト <input type="checkbox"/> 行政運営強化プロジェクト
分野別施策の体系	<p><b>生活環境</b>            自然環境の保全／環境管理対策の推進／水資源の確保／上下水道の整備／温泉資源の活用／環境意識の啓発／景観形成の推進</p> <p><b>生活基盤</b>            道路網の整備／公共交通の充実／情報通信環境の充実／市街地形成の推進／住宅・公園の整備／消防・防災の充実／交通安全・防災対策の充実／都市計画の検討</p> <p><b>農林業</b>            農業支援体制の充実／農地の荒廃対策／生産基盤の整備／担い手・経営体の育成／農業生産・特産品の振興／循環型農業システムの確立／交流型農林業の推進／中山間地域等の振興／森林の保全／森林施業の推進</p> <p><b>商工観光</b>            観光振興体制の充実／観光オペレーション機能の充実／リゾートエリアの再整備／グリーンツーリズム事業の展開／観光施設・観光資源の活用／商業サービスの開発支援／起業化支援の充実／企業・事業所誘致の推進／既存企業との連携強化／商工業の育成</p> <p><b>教育・人権・文化</b>            幼児教育の充実／家庭教育の充実／青少年の健全育成／教育環境の充実／学校教育の充実／生涯学習の推進／男女共同参画の推進／人権を尊重する人づくりの推進／同和対策の充実／国際交流・国内交流の推進／国際性豊かな人づくりの推進／文化財・史跡の保存と活用／伝統行事・地域文化の継承／歴史的街並みの保全／文化・スポーツ施設の活用／芸術文化・スポーツ活動の振興</p> <p><b>福祉保健</b>            健康づくりの推進／保健・医療・福祉の連携強化／子育て支援の充実／高齢者や障害者の社会参加の促進／医療体制の充実／地域福祉の充実／高齢者福祉の充実／障害者福祉の充実</p> <p><b>コミュニティ</b>            住民活動・集落活動の活発化／コミュニティ施設の整備／新町住民の交流・連携の促進／地域間交流の推進／地域が支える福祉・子育て・安全</p> <p><b>行財政</b>            住民と行政の協働の推進／情報公開の推進／柔軟で効率的な行政体制の確立／公共施設の有効活用／行財政運営の効率化／広域行政の促進</p>



## 第2章 伯耆町のすがた

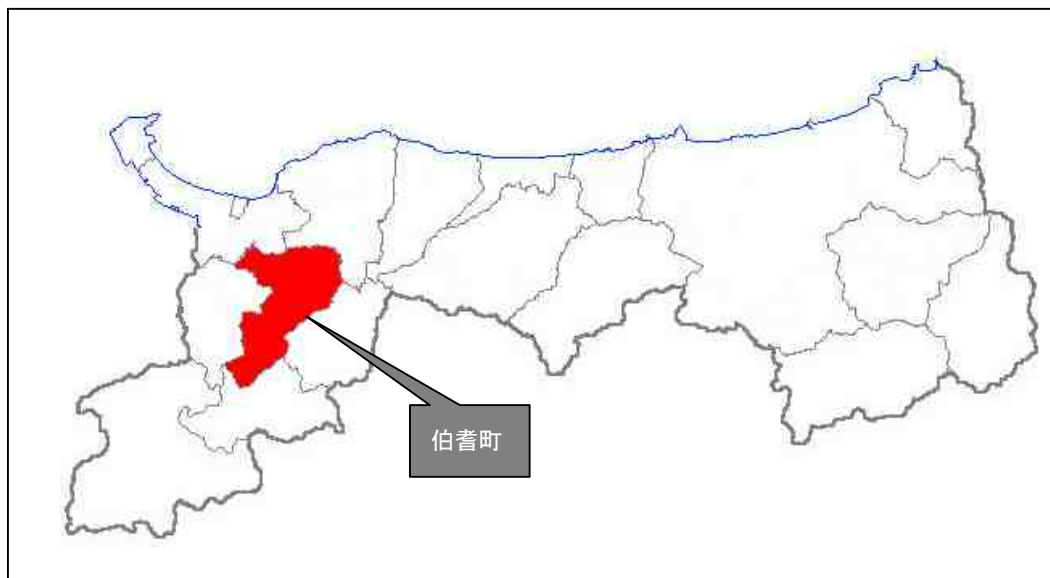
### 1 位置・地勢

伯耆町は、鳥取県の西部に位置し、県庁所在地の鳥取市から約100km、県西部の中心都市である米子市から約8kmの距離にあり、大山隠岐国立公園の中心である大山の西麓に位置します。この地域の東側は大山町及び江府町、西側は南部町、南側は日野町、北側は米子市及び大山町にそれぞれ接しています。行政区域面積は、139.5km<sup>2</sup>です。

本町は、県西部の中心都市である米子市に隣接し、通勤が容易なことからベッドタウンとしての役割を果たしているとともに、大山山ろくを中心にした農業地帯では、多様な農畜産物が生産され、都市部への供給が行われています。また、町内を中国横断自動車道「岡山米子線」が通過し、溝口インターチェンジが設置されていることから国立公園大山、とっとり花回廊などの観光の玄関口となるなど、県西部圏域における拠点として広域的な役割を果たしています。

地勢としては、県下三大河川の一つである日野川が町内を南北に流れており、その流域に平坦部を形成しています。東部から北東部にかけては、大山山麓の形成する榊水高原から水無原に連なる高原地帯となだらかな丘陵地が広がっています。南東部は溪谷状をなしており、南部から南西部にかけては中国山地の連山に囲まれた山間地を形成しています。

#### 【位置図】



## 2 歴史・沿革

伯耆町が位置するこの地域は早くから開け、外部との交流が頻繁におこなわれていたと考えられています。貝田原遺跡（久古）、北田山遺跡（久古）、長山馬籠遺跡（長山）などともに縄文時代、弥生時代の遺跡や出土品が数多く分布しています。

日野川沿いは山陰の鉄を大和（現 奈良盆地東南部周辺）に運ぶ交通路として利用され、江戸時代には出雲街道の宿場町として二部地内に鳥取藩や松江藩の施設が設けられるなど、山陰、山陽を結ぶ古くからの要路として繁栄してきました。

白鳳時代の大寺廃寺跡から発掘された石製鷗尾せきせいしびや小野小町の墓と伝えられる五輪塔、たたら製鉄の歴史を伝える藤屋炉床や日本最古といわれる鬼伝説など、数多くの文化財や史跡等が様々な伝承とともに伝えられています。

旧岸本町は、明治22年の町村制が実施され、会見郡大幡村、幡郷村、日野郡日吉村、吉寿村が誕生し、明治45年に日吉村、吉寿村が合併して八郷村が発足しました。その後、昭和30年3月31日に日野郡の八郷村、西伯郡の大幡村・幡郷村の3か村が合併して誕生しました。

旧溝口町は、明治22年の町村制施行により、溝口村、金岩村、栄村、旭村、二部村、野上村、金澤村、米原村が発足し、大正3年に溝口村、金岩村、栄村が合併し、溝口村、大正7年に金澤村、米原村が合併して日光村、大正10年に野上村、二部村が合併し、二部村が発足しました。その後、昭和6年に溝口村と旭村の合併を経て旧溝口町が発足し、昭和29年に溝口町・二部村・日光村の一部が合併して誕生しました。

その後、いわゆる「平成の大合併」により、県下の市町村合併としては5番目として、平成17年1月、旧岸本町と旧溝口町が合併して伯耆町が誕生し、現在の体制になりました。

平成の合併	昭和の合併		廃置分合	明治22年町村制施行
伯耆町 (平成17年)	西伯郡岸本町 (昭和30年)		西伯郡大幡村 幡郷村	会見郡 大幡村 幡郷村
			日野郡八郷村 (明治45年)	日野郡 日吉村 吉寿村
	日野郡溝口町 (昭和29年)	日野郡溝口町 (昭和6年)	日野郡溝口村 (大正3年)	日野郡 溝口村 金岩村 栄村
			日野郡旭村	日野郡 旭村
		日野郡二部村 (大正10年)		日野郡 二部村 野上村
		日野郡日光村 (大正7年)		日野郡 金澤村 米原村

### 3 人口・世帯・就業構造

平成17年国勢調査による伯耆町の人口は12,343人、世帯数は3,652世帯です。人口の推移をみると、昭和30～40年代では出生率の減少や都市部への流出により、減少しましたが、米子市に隣接した大殿地区では、昭和48年頃から始まった宅地開発などにより、米子市のベッドタウン化が進み、それまでの人口減少に歯止めがかかり、昭和50年から平成7年まで増加傾向で推移していましたが、平成12年以降再度、少子化により減少傾向にあります。

平成12年国勢調査による年齢階層別人口の構成は、15歳未満の年少人口割合が14.5%、15～64歳の生産年齢人口割合が59.4%、65歳以上の老年人口割合が26.1%ですが、少子高齢化傾向がより進展しています。

また、平成12年国勢調査による年齢階層別人口ピラミッド（下表）では、20～34歳までの人口が少なくなっており、就学や就職を契機として若年層が町外へ流出している現状がうかがえます。

世帯数は、昭和50年以降、増加傾向にあり、核家族化の進行が見られます。

就業構造については、15歳以上就業人口は合計6,974人で、産業別の構成は、第一次産業18.4%、第二次産業28.3%、第三次産業53.1%と第三次産業が全体の5割以上を占めています。

#### 【人口・世帯数の推移】

(単位：人・世帯)

区分	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
人口	15,314	14,321	12,856	11,803	11,487	12,071	12,346	12,630	12,709	12,663	12,343
世帯数	2,788	2,723	2,695	2,691	2,812	3,005	3,082	3,283	3,400	3,596	3,652

資料：国勢調査

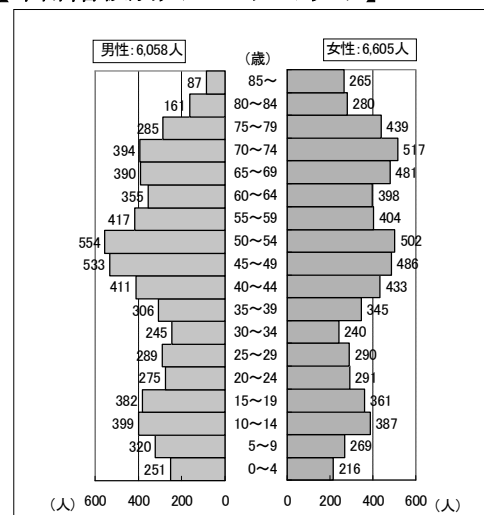
#### 【年齢階層別人口】

単位：人 %

区分	男		女		合計	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
15歳未満	970	16.0	872	13.2	1,842	14.5
15～64歳	3,767	62.2	3,750	56.8	7,517	59.4
65歳以上	1,317	21.8	1,982	30.0	3,299	26.1
総数	6,054	100.0	6,604	100.0	12,658	100.0

資料：H12国勢調査（年齢不詳者5人）

#### 【年齢階級別人口ピラミッド】



資料：平成12年国勢調査より作成

※総数には年齢不詳者を含むがグラフからは除外(男:4人、女:1人)

【産業別就業人口】

単位：人 %

区分	男		女		合計	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
総数	4,014	100.0	2,960	100.0	6,974	100.0
第一次	577	14.4	709	24.0	1,286	18.4
第二次	1,091	27.2	884	29.9	1,975	28.3
第三次	2,342	58.3	1,364	46.1	3,706	53.1

※総数には分類不能の産業を含む。

資料：平成12年国勢調査

## 4. 住民の意向

### (1) 合併まちづくりアンケート結果

#### ① 合併後の将来像について

設問：どのようなまちになっていけばよいと思いますか

全体では「1 1. 障害者や高齢者、子どもに対する福祉が充実したまち」（38.3%）、次いで「4. 豊かな自然環境や優れた景観を大切にするまち」（35.5%）の2項目を選択した人の割合が高く、将来像として少子高齢化に対応し、自然を大切にするまちという将来像を描いている人が多い状況にあります。

年代別では、「1 1. 障害者や高齢者、子どもに対する福祉が充実したまち」は、年齢が高くなるほど選択した人の割合が高くなる傾向にあります。特に60代・70代以上の高齢層と子育て、介護を担う人も多いと考えられる40代での割合が高くなっています。次いで割合の高い「1. 安全な道路の整備や電車、公共バスなど公共交通が充実したまち」は、10代と70代以上で高く、また、「ケーブルテレビ・インターネットなどの情報化が進んだまち」は、10代、20代の若年層で40%以上となっています。

#### ② まちづくり重要施策について

設問：まちづくりにどのような施策が重要だと思いますか

全体では「高齢者等の福祉の充実」、「雇用の場の確保」、「インターネット・ケーブルテレビなどの情報化」の3項目を選択した人の割合が高く、高齢化の進行や情報化への対応、雇用対策の必要性など、近年の社会情勢の変化を反映した結果となっています。

性別にみると、男性では「インターネット・ケーブルテレビなどの情報化」、「雇用の場の確保」、「高齢者等の福祉の充実」の順となっているが、女性では「高齢者等の福祉の充実」、「雇用の場の確保」に次いで「医療の充実」が続いており、まちづくりの重要施策に対する認識、ニーズの違いがみられます。

同様に年代別にみると、「インターネット・ケーブルテレビなどの情報化」は10～30代、次いで20代・30代においては「保育所・子育て支援の充実」、40～60代では「雇用の場の確保」、60代・70代以上は「高齢者等の福祉の充実」の割合が特に高いなど、世代ごとのニーズが明確にあらわれています。

#### 岸本町・溝口町合併まちづくりアンケート調査の概要

- 実施時期：平成15年7月
- 調査方法：無記名調査
- 調査対象：平成15年4月現在で岸本町、溝口町に住所がある15歳以上の方のなかから4,000人を無作為に抽出
- 配布方法：郵送（郵送日 平成15年7月9日）
- 回収方法：郵送（回答期限 平成15年7月25日）
- 回収状況：有効回収数2,006件（回収率 50.26%）

## (2) 伯耆町まちづくり委員会からの提言

### ○自然と共生するまちづくり部会

テーマ	公共交通の改善	グリーンツーリズム※1
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢になっても安心して暮らせるまちづくり</li> <li>○日常生活に密着し、利便性を高めるまちづくり</li> <li>○自然をアピールできるまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民が環境意識に目覚めるまち</li> <li>○スローライフ※2 志向の人々が満喫出来るまち</li> <li>○自然を愛する人々が訪れるまち</li> </ul>
提言内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域密着型の公共交通の確立</li> <li>○地域に密着したバスを目指す</li> <li>○生活に密着している公共交通の存続</li> <li>○エコタウン※3をアピール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続可能なグリーンツーリズム</li> <li>○エコな暮らし</li> </ul>

※1 グリーンツーリズム：農山漁村などに長く滞在し、農林漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅

※2 スローライフ：自然に学び、自然と共に生き、ゆったりと豊かに暮らすこと

※3 エコタウン：環境に配慮した「地球にやさしい」まちづくり

### ○地域産業を育むまちづくり部会

テーマ	商工観光の広域連携	農業再興	グリーンツーリズム	ブランド
目標	競争力のある広域連携	ずう〜っと続けていける農業	再発見 グリーンツーリズム	魅力あふれる特産品
提言内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちづくり委員会の継続</li> <li>○伯耆町まちづくりメーリングリスト※4（仮称）作成</li> <li>○まちづくり委員会事務室開設</li> <li>○持続可能な農業環境の整備</li> </ul>			

※4 メーリングリスト：電子メールのアドレスを蓄積したものの記録

### ○豊かな心が育つまちづくり部会

テーマ	食育	共育	地育
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命と食とのつながりを理解し、生きる力を育てる</li> <li>○食の源である農業を体験と交流を通じて楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一生感動できるライフスタイル※5の充実</li> <li>○子供が育ち親も育つまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然との共生を体感できるまちづくり</li> <li>○文化、芸術の継承と創造の推進</li> </ul>
提言内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康は「食」から ～日々の身近な「食」見直そう！～</li> <li>◎食育手帳※6の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源（施設・人等）を有効活用しよう！</li> <li>◎生涯学習の充実</li> <li>◎人材バンクの設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信を持って誇れるまちにしよう！</li> <li>◎「伯耆町の日」の制定</li> <li>◎町全体を公園化</li> </ul>

※5 ライフスタイル：生活様式、暮らしぶり

※6 食育手帳：食農教育を行うために農業の現状や作物の栽培の仕方などについてまとめた手引書

### ○健康・安心のまちづくり部会

テーマ	子育て支援	健康づくり	高齢者・障害者支援
目標	安心して仕事に出られるまち	病気にならない体づくり	安心して暮らせるまち
提言内容	○保育所体制の見直し ○ファミリーサポートセンター※1の設立 ○健康増進事業の拡充 ○福祉サービスの拡充 ○交通手段の確保 ○ボランティア活動の促進 ○医療（救急）・ケア体制の整備 ○地域人材の有効活用		

生活総合  
サポートセンターをつ  
くろう

※1 ファミリーサポートセンター：育児や介護の援助を行いたい人と受けたい人が会員になり、一時的に有料で援助し合う組織。

### ○住民と行政による協働のまちづくり部会

テーマ	写真美術館の有効活用	行政体制の再構築	住民と行政のパートナーシップ
目標	健全な財政のまち	住民にわかりやすいまち	民意が反映され住民が行動しやすいまち
提言内容	○写真美術館検討委員会の設立(移管・存続・廃止の検討)	○職員の資質向上(行政組織活性化の原点) ○行政改革の早期実施(行政組織の見直し・イベントの見直し)	○まちづくり委員会の継続(住民参画の場づくり) ○NPO※2・ボランティアとの協働(協働のまちづくり) ○まちづくり指針の策定(協働のまちづくりを推進するための役割分担を示す) ○情報共有を促進する(CATVの活用・ホームページの活用促進)

※2 NPO：non-profit organization の略 民間非営利団体 継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体

#### 伯耆町まちづくり委員会概要

- 委員：住民からの公募と推薦による27名
- 会議方式：5部会にわかれてのワークショップ方式
- 活動経過：平成17年5月17日から8月23日までに7回の委員会と町内視察を開催。

## 第3章 時代の潮流

### ○少子・高齢化の進行

わが国は、少子化の影響により生産年齢人口は既に1995年（平成7年）以降、減少しており、総人口についても2005年（平成17年）から減少に転じています。また、世界的にみても例をみないスピードで高齢化が進行しています。

人口減少・高齢社会においては、労働力人口や消費需要の減少などを要因とした経済成長の鈍化や社会保障負担の増大など経済面への影響のほか、居住密度の希薄化がすすむことによる地域コミュニティの弱体化や国土の保全管理上の問題など社会全体への影響が強く懸念されています。

### ○環境保全や安心・安全への意識、健康志向の高まり

資源の枯渇、地球温暖化の進行、廃棄物や有害物質の蓄積、環境ホルモンなどにより、自然環境の破壊や生態系への悪影響がもたらされ、環境問題への関心が高まっています。

また、治安の悪化、テロ犯罪、食の安全を脅かす事件、大災害による被害や交通事故などのリスクと隣り合わせで日常生活を送っているのが現状です。

このようなことから、住民の生活環境や安心・安全への意識は高まりつつあり、高齢社会の到来とともに健康志向は年々高まっています。

### ○高度情報化の進展

インターネットに代表される情報通信技術の進展と普及は著しく、2004年末のインターネット人口普及率※1は62.3%と推計され、情報ネットワークやマルチメディア※2が一層発展し、住民の情報交換が容易になり、仕事や娯楽等の可能性が広がるほか、生活全般にわたる利便性が向上し、新たな文化や生活様式が生まれつつあります。

一方、これに伴って、個人情報の蓄積、流通、加工、編集が簡単に行えるようになり、場合によっては、個人情報が瞬時に世界中を駆け巡るような状況が出現し、データの漏洩などの事故も少なからず起こっています。

このようなことから平成17年4月より、個人情報保護法が全面施行され、事業者は個人情報の適正な取扱いが求められ、個人情報保護の重要性が一層増しています。

※1 インターネット人口普及率：人口に占める利用者の割合。出典・総務省「通信利用動向調査」

※2 マルチメディア：デジタル化された情報を基礎に文字、数字、音声、画像などの複数の情報形態を統合して扱える方式



## ○価値観や意識の転換

情報化の進展や平均寿命の伸長を受けて価値観の多様化が進み、心の豊かさやライフスタイルの自由な選択を望む傾向が強まっています。特に、雇用形態や介護などの社会システムが変化し、性別や年代による固定的な役割分担の意識も変わりつつあり、様々な個性や価値観をお互いに尊重し、認め合うことが求められています。

## ○分権型社会への移行

近年の社会情勢の変化により、これまでのような中央依存の画一的な社会システムでは、活力に満ちた地域をつくっていくことが難しくなっています。このような中で「地方分権推進一括法」の制定や「合併特例法」の改正など地方分権や広域行政化にむけた取り組みが進められており、分権型社会が構築されつつあります。国と地方が対等・協力の関係のもと、住民、NPO※、ボランティア、企業、行政など多様な主体が自らの責任と判断により、創意と工夫を凝らしながら個性豊かな魅力あふれる地域をつくっていく「地方自立の時代」が訪れようとしています。

※NPO：non-profit organization の略 民間非営利団体 継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体

## 第4章 伯耆町の特性と課題

### (1) 伯耆町の特性

#### ○豊かな自然環境に恵まれたまち

本町は、中国地方を代表する秀峰大山や鳥取県の三大河川の一つである日野川など、雄大な自然景観に囲まれたうるおいのある環境の中にあります。

この恵まれた自然環境を観光や産業など、さまざまな面で活かすとともに、自然環境の保全や自然と調和した生活環境の創出を図っています。

#### ○多彩な観光資源を共有するまち

本町は、国立公園大山に代表される自然環境を活用したゴルフ場やスキー場、また自然を活かした公園や広場、さらには温泉などの観光・リゾート施設を整備してきており、多彩な観光資源を共有しながら大山を中心とした観光エリアを形成しています。

#### ○広域的な高速交通網を共有するまち

本町は、道路交通網として米子市から町内を通過して岡山県津山市に至る国道181号、中国自動車道に直結する中国横断自動車道の溝口インターチェンジが立地しており、広域的な経済活動や観光、交流において有利な条件となる高速交通網が整備されています。

#### ○農業と観光・交流が連携するまち

本町では、米のほか白ねぎ、白菜、しいたけ等の特産品の生産やブロイラー、乳用牛、肉用牛の飼育などの農業が盛んに行われています。さらに特産品開発や観光と地場産品の流通の連携など、農業を観光・交流と連携させることによって新たな発展を図る取り組みがなされています。

#### ○固有の歴史文化をもつまち

本町には、白鳳時代の勢力を物語る大寺廃寺跡やたたら製鉄を背景として江戸時代に栄えた出雲街道の宿場町など、地域固有の歴史文化が伝えられています。また、大寺廃寺の石製せきせいしび鷗尾や小野小町の墓と伝えられる五輪塔、日本最古の鬼伝説などがまちづくりに活用され、地域住民にとって身近なものとなっています。

## **(2) 伯耆町の課題**

### **○少子高齢化への対応と若者定住対策**

本町の将来人口は、今後緩やかな減少傾向となり、高齢化率も徐々に高まることが見込まれています。また、本町においては 20～30 代の若年層の流出があり、少子化や高齢化に拍車をかけています。これらに起因して、町の活力低下を招くとともに医療や福祉への需要の増大による自治体負担の増加や独居高齢者の増加、地域の自治活動や福祉活動、伝統文化の継承への影響などさまざまな問題が懸念され、少子高齢化への対応と若者定住対策が急務です。

### **○環境や景観の保全**

本町は、豊かな自然に恵まれており、合併まちづくりアンケートの結果でも「環境や景観の保全」を求める住民の声は強く、多くの人々に安らぎを与えるかけがえのない自然や景観を守り、後世に財産として残していくことは本町の住民にとって重要な課題です。そのためには、自然環境の保全と地球環境に負荷をかけない持続可能な循環型社会への移行のために何をなすべきかを検討、実践していくことが求められています。

### **○多様化する住民ニーズへの対応**

本町は、大山山麓や日野川流域に広がる農村地域、野上川周辺の中山間地域、そして国道 181 号沿線で米子市に隣接した都市周辺地域に分けられます。これらの立地条件の違い、時代の変化、個々のライフスタイルの個性化などにより、住民ニーズは、多様化しています。一方、厳しい財政状況、少子高齢化の進展などにより、行政をめぐる環境は著しく変化しています。これらの条件により、多様化するすべての住民ニーズに行政が対応することができない状況にあります。

### **○地方の自立**

地方分権の推進に伴って、今後、自治体への権限移譲が一層進むとされており、自治体には自らの判断と責任の下に、地域の特性に応じたまちづくりや住民に身近なサービスの提供を実施していくことが求められます。また、本町の財政は、自主財源比率が低く、地方交付税に依存した財政構造であり、三位一体改革にともない地方交付税の削減が進められています。今後、権限移譲とバランスの取れた財源移転を政府に求めるとともに、自主的な財源確保等財政基盤の強化や行政改革の推進、予算の重点的な配分によって効率的な行政運営を実現し、財政の健全化を図り、本格的な自立を目指さなければなりません。

## ○拡大する生活圏に対応した生活利便性の向上

交通基盤の整備等にともない、地域住民の生活圏や交流圏はますます拡大する傾向にあります。

このような中で、特に山間部の自動車を運転できない高齢者等にとっては、買い物や通院における交通手段の確保が課題となっています。このため、市街地域や医療機関等へのアクセスの向上を図るための公共交通の確保など、生活利便性の向上に向けた取り組みが必要です。

## ○安全・安心への取り組み

本町は、旧町時代から「住民の生命や財産を守る」という重要課題に積極的に取り組んできました。平成12年に発生した鳥取県西部地震や近年、国内に多くの傷跡を残した自然災害を教訓に対策を強化し、災害に強い安全な地域づくりを進めていかななくてはなりません。

また、今後、高齢化や核家族化の進展に伴い、高齢者の一人暮らしや高齢者だけの世帯の増加が予想されることから、交通事故の防止や防犯に地域ぐるみで取り組んでいくとともに、自然災害、火災、防犯、消費生活等に対する住民の不安を解消していくための取り組みが急がれます。

## ○地域資源の活用と地域産業の活性化

本町には国立公園大山を中心に魅力あふれる観光地や施設が豊富に整備されています。

しかしながら、観光地、施設、そして産業間などそれぞれの連携による効果は、まだ十分に発揮されていません。

また、高速交通網の整備に伴って観光にとって有利な条件となる一方で、日帰りや周辺観光地への通過地となるなどの傾向が見られます。

このため、多様な地域資源や地域産業の連携を強め、相乗効果を創出する取り組みが必要です。今後、地域間競争がますます激化すると予想されており、地域の特色を活かした力強い産業構造をどのように築いていくかが大きな課題です。